

海外日本語教育

かい がい に ほん ご きょう いく

Q & A

このコーナーでは、海外で日本語を教えるときに、教師が直面すると思われる問題をとりあげ、質問に答える形で、読者のみなさんの参考になる情報を提供していきます。

Q

中・上級の読解の授業の進め方について教えてください。

A

35号で「初級の読解」について説明しましたが、中・上級の読解の授業でも、読む前（準備活動）読む読んだあと（発展的活動）という流れは同じです。中・上級では、文章の種類やテーマを考え、中心的な情報は何か、学習者は何を讀みとることが必要かを教師がよく考え、課題（タスク）を設定するようにしましょう。

中・上級の読解の特徴

ちゅう じょうきゅう どうがい とくちょう

中・上級になると、文章の量が増えてくると同時に、説明文、報道文、意見文や論説文など、いろいろな種類の文章を読むことが必要になります。取り上げるテーマも、初級のときの身近なものから一歩進んで、文化、政治・経済、自然科学、社会問題など、幅広い分野のものを学習者の興味に合わせて選んでいくこととなります。読み手は、書かれている事実を順をおって理解するだけではなく、筆者の意見や、筆者がそう思うに到った背景を読みとることが重要です。

また、理解したことを学習者同士で話し合うことによって理解を深め、さらに、内容について個人の意見を述べ合う活動を設けることによって、4技能を総合的に伸ばしていくことも大切です。これは、語彙や表現力を伸ばしていくことにつながります。

読む前の活動：どんな導入をするか？

よ まえ かつどう どうにゅう

「読む」前には、①学習者の知識や想像力を刺激して内容について関心を高め、②語彙や表現などでつまづかないように手当をしておくことが大切です。また、この二つをなるべく関連づけて行うと効果的です。次のような方法のいくつかを、読解素材の特徴に合わせて使ってください。

- (1) 読解のテーマに関する話し合い
- (2) タイトルや見出しからの内容の予測
- (3) 文章中の写真や図表からの内容の予測
- (4) 重要語彙（キーワード）の導入
- (5) 内容理解に必要な情報や知識の導入

例1は、「縦書き？横書き？」という見出しの新聞記事を使った読解活動の前の、「話し合い」の例です。

新聞や雑誌の記事では、「見出し」が手がかりになります。

*記事を読む前に

(1) 記事を読む前に次のことについて話し合ってみましょう。

- 日本語を書くとき、「縦書き」の方が好きか、「横書き」の方が好きか。
- どちらの方をよく使うか、どちらが書きやすいか、理由は？
- 日本人は、どんな文を書くときは「縦書き」、どんな文を書くときは「横書き」を好むと思うか。
- 「縦書き」「横書き」は読む人にそれぞれどんな印象を与えようと思うか。

例1. 出典：『中・上級者のための速読の日本語』P.110

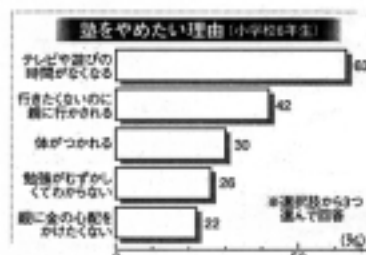
例2は、本誌35号の「新聞・雑誌から見る現代日本」で紹介された記事の見出し部分です。

また新聞によく使われている「写真や図表」も、見出しとともに内容について多くのことを伝えてくれます。例3のグラフから、みなさんはどんな内容の記事を想像しますか。

新聞記事に限らず、読解文でも、タイトルや挿し絵(例4)は、これから読む内容についてたくさんのヒントを与えてくれます。

このように見出しやタイトル、図表や挿絵などを使って、わかること、想像したことを話し合わせ、必要に応じて

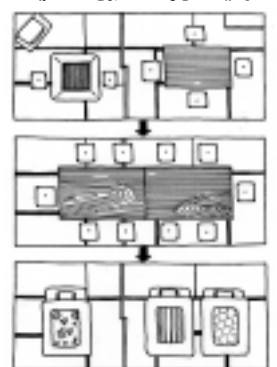
通読率は急上昇



例3. 98年4月25日付 読売新聞 朝刊

例4. 出典：『日本語中級読解入門』P147

第26課 「狭くて広い和室」



例2. 99年5月21日付 毎日新聞 朝刊

初めて50%突破

野村総研調査

じてキーワードや背景知識を導入するとよいでしょう。

何を読み取らせるか

なに よ と

読むものの種類やテーマによって、また読み手が何を
知りたいか(例「新聞のテレビ番組を見て夜8時に始
まるドラマを探す」)によって、読み取る情報が違って
きます。また必要な情報を読み取るには、わからない語
彙があっても推測して読みすすみ、全体を把握(スキミ
ング)し、また、必要な情報を探し出して読み取る(ス
キャンニング)という、3つの技能を身につけることが大
切です。

* 市販の教材からいくつかの例を紹介します。

次の文を読んで、下にキーワードを書き直さない。(3分)
Read the following passage and jot down keywords. (3 minutes)

1月8日午後10時ごろ仕事からの帰り道で田中さんは交通事故を起こした。車がスリップして
正面から水にぶつかった。雪が降り出したばかりで道がすべりやすくなっていて、
ブレーキがきかなかったようだ。幸いけがはしなかったが車はめちゃめちゃになってしまった。

- (1) だれが ()
(2) いつ ()
(3) どこで ()
(4) なにをしたか ()
(5) なぜそうなったか ()
(6) どうなったか ()

例5・出典：『中・上級者のための速読の日本語』P.38

例5は、大意把握のための問題です。「だれが」「いつ」「どこで/へ」「なにを/が」する/起こるの部分は、多くの新聞記事に共通する読み取りのポイントです。

次の例6は、「縦書き?横書き?」(例1)の新聞記事
についての問題です。このように、意見文の場合は、主張を読み取ることが中心になります。

*記事を読んで

(3) 記事の全体を読んで、どんな意見があったか話し合ってみましょう。

- a. 「縦書きがいい」と答えた人 = () 人
代表的な意見：
b. 「横書きがいい」と答えた人 = () 人
代表的な意見：
c. 「どちらもいい」と答えた人 = () 人
代表的な意見：

(4) 記者(この記事を書いた人)の意見をまとめましょう。

- a. 「縦書き」について：
b. 「横書き」について：

例6・出典：『中・上級者のための速読の日本語』P.110

読んだあとの活動

よ かつどう

文章中の重要語彙・表現の確認と練習を行うことは、すでにやっていると思います。中・上級の読解では是非取り入れてほしいのは、「あなたならどうするか、どう思うか?」という自分の意見を表現する活動です。

例1~例6では、「日本語を書くとき横書きがいいか、縦書きがいいか」(例1、例6)、「4人家族(子ども2人)で3DKの家を作るなら、和室がほしいか」(例4)、「塾のいいところ、わるいところ」(例3)、「携帯電話は必要か」(例2)など、いろいろなテーマが考えられます。

活動には、2つのグループに分かれて意見を言い合う、役割を決めてロールプレイをする(例「塾に行かせたい母親と行きたくない子どもの会話」)、自分の考えをまとめてスピーチをするなど、いろいろあります。

日常生活で、新聞記事をネタに友達とおしゃべりすることがあるように、話したり書いたりするためにも「読む」ことが必要だということが学習者に伝わるといいと思います。

市販教材について

し はんきょうざい

* 中・上級用の読解教材のうち、いくつかを紹介します。

富岡純子他(1991)『日本語中級読解入門』アルク
三浦昭監修 岡まゆみ著(1998)『中・上級者のための速読の日本語』ジャパントイムズ
伊藤博子他(1992)『「読み」への挑戦』くろしを出版
産能短期大学日本語教育研究室編著(1991)『日本語を楽しく読む本・中級』産能短期大学交際交流センター

* 総合教材的なものとしては次のようなものもあります。

文化外国語専門学校編(1994,1997)『文化中級日本語』1、2 文化外国語専門学校
鎌田修(1998)『中級から上級への日本語』ジャパントイムズ

このコーナーでとりあげてほしいことを教えてください。また意見・感想もお寄せください。

このコーナーの担当者：藤長かおる(日本語国際センター専任講師)